

# 2008年電磁界の健康影響に関する国際調整会合※の結果報告

資料-生電3-8

## 会合の背景

※英語名称は、「Global Coordination of Research on Electromagnetic Fields (GLORE)」

電波の安全性に関する各国規制当局における施策や各国における研究活動等について意見交換を行い、各国間での施策等の推進を調和することを目的とし、平成9年に日韓でスタートして以降、EU・米国・豪州・中国が順次参加している。

## 開催概要

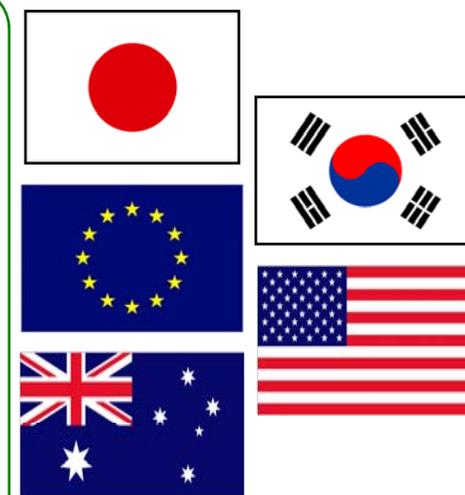
- 日時：2008年12月8日(月) 研究活動及びリスクコミュニケーションに関する活動の紹介  
2008年12月9日(火) 施策の紹介及び今後の本会合の方向性に関するディスカッション
- 場所：イリノイ工科大学研究所、シカゴ(米国)
- 内容：各国の研究活動・リスクコミュニケーション・施策に関する紹介等
- 参加者：日本・韓国・EU(フランス、ドイツ、ハンガリー)・米国・豪州より、24名の行政官・研究者が出席。日本からは、大久保千代次 生体電磁環境に関する検討会座長を始め、総務省、情報通信研究機構、大学教授など9名が参加。



【会合風景等】

## 開催結果

- 日本からは、我が国における施策及び研究活動等の報告を行うとともに、「生体電磁環境に関する検討会」の開催について報告を行った。
- 携帯電話端末等の安全性評価のための局所SARの基準値については、2006年にIEEEがICNIRPと調和した基準値(2W/Kg、10gで測定)を採用。従来のIEEEの基準値(1.6W/Kg、1gで測定)を採用している米韓は、現時点では変更予定はないとのこと。
- 各国のリスクコミュニケーション(ウェブ、説明会等)の取り組みを紹介。欧州では行政機関等が開催する説明会は国民から信頼されず聴衆が集まらない傾向にあるが、日本では説明会が定期的に開催され聴衆が集まっていることについて感心が高かった。
- 今後は、WHOや外部機関等へ意見・成果を反映出来るような会合となるべきであるという意見で一致。参加希望国については、段階的に参加を求めていくこととなった。
- 次回会合は、2009年11月に豪州の主催によりメルボルンにおいて開催予定。



【2008年参加国】